

編集後記：新型コロナウイルスの流行にもようやく陰りが見えてきて、少しずつ行動抑制も緩和されつつあるようです。小職が前回の編集後記を担当したのは2020年11月号で、その頃から盛んに行われるようになったテレワークについて、雑感を記したことを覚えています。

爾來2年半ほど経過しましたが、この間、小職は気象庁気象衛星課で、気象衛星ひまわり8号・9号の後継衛星の仕様検討や調達作業を中心に業務を行っていました。特に後継衛星の仕様検討にあたっては、気象学会の大会等でもその検討状況を説明するとともに、ひまわりデータの利用者でもある学会員の皆様から、いろいろなお意見をいただきました。

後継衛星につきましては、おかげさまで、衛星製造の契約が無事に行われ、イメージ観測機能の維持・拡張や赤外サウンダの新規搭載など、観測機能向上の

実現に向けて、その整備に着手することができました。ご意見をお寄せいただいた皆様、ありがとうございます。

後継衛星はひまわり10号となりますが、2029年度をめどに運用を開始することになっております。ひまわりは気象業務だけでなく、国民の皆様にひろく利用されており、我が国の重要な社会資本となっています。10号においても、オールジャパンで最大限の利用を図っていくことが求められております。今後も本誌や大会等を利用して、学会員の皆様にも10号に関する情報を共有していくとともに、そのデータの将来の利用（およびその準備）を呼びかけていきたいと考えておりますので、お付き合いのほど、どうかよろしく申し上げます。

(別所康太郎)